

令和8年度
シラバス

教科・科目	地理歴史・地理総合	単位数	2
-------	-----------	-----	---

学年・クラス	3学年 (必修 ・ 選択)	担当者	森下 貴秋
使用教科書	帝国書院 高校生の地理総合、帝国書院 標準高等地図		
使用副教材	帝国書院 新詳地理資料 COMPLETE2026		

目 標

世界各地の生活・文化について、地形や気候などの自然環境や産業・民族・言語・宗教などの社会環境との関わりを考察し、多様性に富む現代に暮らす1人として未来にむけて何をすべきなのか考える。

授業の内容・進め方

内 容：世界各地の生活文化の多様性について、自然環境・産業・民族・言語・宗教など課題意識を持って学習します
 進め方：教科書と資料集を中心に展開します。興味を持ったことについて深く調べ、自分自身の考えをまとめて発表することもあります。家庭での予習・復習が必要です。
 考 査：授業で学習したことの理解度、思考力・判断力、表現力・資料活用の技術が試されます。
 観 点：興味・関心をもって意欲的に授業参加しているか、内容をしっかり理解して自分のものになっているか、知識を活用した思考・判断で表現できているかを観ます。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
近現代の	世界各地の生活文化の多様性について、地形や気候などの自然環境や、産業・民族・言語・宗教などの社会環境との関わりを関する諸資料を読みとり、その特色について理解することができる。	世界各地の生活文化の多様性について、地形や気候などの自然環境や、産業・民族・言語・宗教などの社会環境との関わりを多面的・多角的に考察し公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界各地の生活文化の多様性について地形や気候などの自然環境や産業・民族・言語・宗教などの社会環境との関わりを考察し、多様性に富む現代に暮らす1人として未来にむけて何をすべきか考えることできる。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評 価 項 目	定期考査（年3回）	◎	○	△
	小テスト（適宜実施）	◎	△	○
	レポート（適宜実施）	○	◎	◎
	課題提出（長期休み明け及び適宜実施）	○	△	◎
	授業への参加（通年）	△	○	◎

- ・ **観点別評価** 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。
 A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する
- ・ **評価・評定** 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

年間指導計画及び中単元別評価基準

学期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	4	第1部 システムでとらえる現代世界	1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 地球儀と地図 2節 地図と地理情報システム	地球儀や様々な図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。	各種の地図にはどのような特徴があるのか、地図や地理情報システムはどのように利用できるかについて、多面的多角的に考察し、表現している。	目的に応じた地図や地理情報システムの活用方法について、主体的に追究し、課題を見出している。 地球上における位置の違いによって生じている物事について、主体的に追究し、課題を見出している。
			2章 結びつきを深める現代社会 1節 現代世界の国家と領域 2節 地図から見る国内や国家間の結びつき	世界を構成する国家の領域の定め方、地図を通じた世界の国々の結びつき、交通・通信・人の移動の特徴について理解している。国家の領域や世界の国々の結びつきを見出すための読図の技法を身につけている。	国家の領域はどのように定められ、どのような領土問題があるのか、世界の国々はどう結びついているのか、地図を通じて多面的・多角的に考察しようとしている。	国家の領域の定め方や領土問題、世界の国々の結びつき交通・通信・人の移動の特徴について、地図を通じて主体的に追究し、課題を見出そうとしている。
5	6	第2部 国際理解と国際協力	1章 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	世界の多様な生活文化が自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼしあいながら形成されてきたことを理解している。生活文化の相互性を理解している。	地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他の地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどう形成されてきたかについて表現している。	世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて主体的に追求し、課題を見出している。 気候と深く関わりあいながら生活を築いてきたことについて追究している。
			前期中間考査			
7	8	3節 世界の産業と人々の生活 4節 世界の言語・宗教、歴史的背景と人々の生活 5節 生活文化の多様性と地理的環境 ・アジア諸国、インド ・中央・西アジア ・アフリカ ・ヨーロッパ	農業や工業の国際化や技術の発達が生きてきたことについて理解している。宗教・民族・言語は人々の生活にどう影響を与えたか理解している。	自らの食生活をイメージしながら、農業の国際化や技術の発展が生きてきたことについて多面的・多角的に考察しようとしている。	農業の発展が、自らの食生活だけでなく、世界の人々の生活も変えてきたことについて、主体的に追求し、課題を見出している。宗教・言語の文化が民族形成や生活に与えた影響を見出している。	
			季節風が自然環境や社会環境に与える影響や他地域との結びつきを生み影響を与えたか理解している。	季節風が自然環境や社会環境に与える影響や他地域との結びつきを生み影響を与えたか多角的に考察しようとしている。	季節風が自然環境や社会環境に与える影響や他地域との結びつきを生み影響を与えたか主体的に追究しようとしている。	
8	9	・ロシア ・アメリカ ・ラテンアメリカ ・オセアニア	寒冷な気候の下で人々が工夫しながら生活を築いてきたことについて理解している。 移民とそれを受け入れてきた社会の活力が世界の人々に影響を与える文化や産業を産み出してきたことを理解している。 ヨーロッパの人々の進出が与えた影響を理解している。	衣服や住居に着目しながら寒冷な気候に対するすべてとして人々がどのような生活上の工夫をしてきたかについて多面的・多角的に考察しようとしている。移民の歴史に着目しながら世界の人々に影響を与える文化や産業がどのように産み出されてきたかを考察しようとしている。	気候と深く関わりあいながら形成されてきた生活様式や工夫について、主体的に追究し、課題を見出している。 異なるものの融合によって世界的に影響をもつ文化や産業が産み出されてきた側面と差別や格差が共生を難しくしている側面について主体的に追究し、課題を見出し、取り組むことができる。	
			前期期末考査			
9	10					

11	2章 地球的課題と 国際協力	世界のどこでどのような人口問題・食料問題・都市問題が生じているか理解している。また、都市・居住問題の現れ方について理解している。	人口増加と人口減少の要因について多面的・多角的に考察しようとしている。食料問題について多面的・多角的に考察しようとしている。	人口問題・食料問題・都市問題が生じている場所や要因になっているのについて、主体的に追究、自ら課題を見出している。	
	1節 人口問題				
	2節 食料問題				
	3節 都市・居住問題				
後期中間考査					
12	第3部 持続可能な 地域づくりと私たち	1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波や 火山活動と防災 3節 気象と防災	世界と比較した日本の自然環境の特徴について理解している。地形や気候に着目しながら、日本の自然環境の特徴について理解している。 火山の周辺に暮らす人が過去の教訓を踏まえ、行っていることについてその対策について理解している。	世界と比較した日本の自然環境の特徴について地形や気候に着目しながら多面的・多角的に考察しようとしている。 普賢岳や桜島の噴火の過去から火山周辺に暮らす人達がどのような対策をしてきたか多角的・多面的に考察しようとしている。	世界の地形や気候、自然の驚異について主体的に追究し、課題を見出し解決に向けて努力しようとしている。 人々の生活のなかにみられる地震・津波や火山活動への取り組みや対策について主体的に追究し、課題を見出している。また、その向き合い方について主体的に追究しようとしている。
	4節 自然の脅威への おさえ	自然の脅威による災害を最小限にするために必要な備えについて理解している。 生活圏の調査にあたって仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解しようとしている。 生活圏の調査を行う上で「問い」を立てることや事前調査が必要なことについて理解し、技能として身につけている。	事前の備えに着目しながら自然の脅威にどのように立ち向かえばよいかについて多角的・多面的に考察しようとしている。 事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのか、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較から、どのようなことがいえるかについて多面的・多角的に考察しようとしている。	事前の備えに着目しながら自然の脅威にどのように立ち向かえばよいかについて主体的に追究しようとしている。 生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて、主体的に追究しようとしている。 自らの生活圏について「問い」を立てたり、事前調査方法を考えるなど、主体的に追究し課題を見出している。	
	2章 生活圏の調査と 地域の展望 1節 地理的な調査 テーマの設定 2節 事前調査と 現地調査	現地調査の結果を分析・整理し、仮説の検証を行うことについて理解し、技能として身につけている。 現地調査の発表方法や調査結果を地域に還元するために必要な取り組みについて理解し、技能として身につけている。	他の地域の似た事例と比較するなど、仮説をどのように検証するのかについて、多面的・多角的に考察しようとしている。 調査結果の発表方法に着目しながら、現地調査の結果をどのようにまとめ、発表するかについて多面的・多角的に考察しようとしている。	自らの生活圏に対して「問い」を立てたり事前調査方法を考えたりするなど、主体的に追究し課題を見出している。 調査結果を地域に還元するという視点をもちながら調査結果のまとめ方や発表のしかたについて、主体的に追究し、表現しようとしている。	
1	3節 調査結果の分析 仮説の検証 4節 調査結果のまとめと地域社会への 参画				